



あいち民主

県議団県政レポート

「基幹的広域防災拠点整備」など、 地域防災力の充実強化に万全を期す!

12月議会に上程された主な案件

令和6年12月定例県議会(12月2日~12月19日)では、8月27日から9月2日にかけて発生した令和6年台風10号によって被災した施設の災害復旧事業等の増額などを含めた12月補正予算を慎重に審議しました。

●愛知県基幹的広域防災拠点整備について

愛知県基幹的広域防災拠点は愛知県豊山町地内(19.2%)に整備を進めています。第1期として整備する消防学校について、PFI手法により設計・建設及び維持管理・運営を行うために約163億円の予算を計上しています。今回整備する消防学校は、愛知県と名古屋市が共同設置するもので、県と政令市による共同設置は全国初の取組です。全県一貫した教育訓練を実施し、雨天でも利用できる救助訓練棟の他、可動式模擬家屋を用いた街区消火訓練場や、実火災を再現し、高度な消火技術を錬成できる複合訓練施設などを整備し、実践的な訓練を行

うことで県内消防のレベルアップを図ります。また、地域防災力の要である消防団の教育訓練も行い、地域防災力の充実強化を図ります。消防学校のイメージ図は4ページに掲載してあります。

●愛知芸術文化センターの活性化に向けて

愛知芸術文化センターの建物管理と愛知県芸術劇場の運営について、PFI法に基づく「コンセッション方式」を導入し、民間事業者のノウハウや創意工夫を最大限に活用するために約226億円の債務負担予算を計上しています。

●高温対策に必要な農業機械、設備等の導入にかかる支援について

近年の夏期高温による農作物への影響を軽減し、産地の生産力強化を図るため、本県独自の補助事業・あいち型産地パワーアップ事業費補助金において、自動カーテン・ミスト装置・簡易保冷施設等の農業機械・設備等について、次の夏までに導入が間に合うよう5,000万円予算を計上しています。

あいち民主県議団 議員提案条例プロジェクトチーム 活動報告

近年、社会的課題となっているカスタマーハラスメントについて条例制定を前提とした具体的な防止対策の方向性を検討し、大村知事にカスハラ条例制定に向けて強く要望活動を推進する。

1. 活動内容

開催日	活動内容
第1回 (R6.9.20)	・ 労働局労働福祉課からヒアリング (1) カスタマーハラスメント防止対策に関する県の取組状況について
第2回 (R6.10.1)	・ 業界団体(UAゼンセン)からヒアリング (1) カスタマーハラスメント防止対策について (2) UAゼンセンの取り組みについて ・ 東京都カスタマーハラスメント防止条例
第3回 (R6.11.5)	・ カスタマーハラスメント防止条例に規定すべき事項について検討
第4回 (R6.11.15)	・ 分科会活動のまとめ



【検討状況】

- ・ 条例制定する方向性で検討が進んでいる。
- ・ カスハラ定義は国の報告書に沿った記載とする。
- ・ 県、事業者、労働者、顧客等の主体ごとに役割を担う必要がある。
- ・ 罰則については実効性を含め慎重に議論を行う必要がある。
- ・ 県の取組としては、①判断基準の作成、②周知・啓発、③防止に向けた支援、が考えられる。

あいち民主具議団 代表質問から

(12月4日 本会議)



政策調査会長 鈴木 まさと (岡崎市及び額田郡 4期)

1 ロボットの社会実装推進のため、県としてどのように取り組んでいくのか

知事

近年、モノづくり現場や倉庫においては、ロボット導入が進む一方、利用環境が多様な対人サービスや配送といった分野では、費用対効果の不透明さや運用面の不安が導入に向けた課題となつていきます。このため、今年度、導入可能性調査や運用課題の検証に要する費用を支援する本県独自の補助金、「ロボット未活用領域導入検証補助金」を創設しました。これまでに8件の実証事業を採択し、博物館におけるロボットによる館内案内ツアーの実現を目指した試験運用や、一人暮らし高齢者の健康見守りロボットの活用促進に向けた技術検証などを支援しています。さらに、今後一層の市場

2 中高年齢者の雇用促進について、どのように取り組んでいくのか

知事

年齢が高くなるにつれ、自身の能力や経験を生かしたいと思う仕事と中小企業等が求める業務でミスマッチが生じ、採用に至らないことが課題です。こうした中小企業の人材確保を支援するため、高齢者の雇用メリットや活用方法等を紹介するセミナーなどを実施しています。また、セカンドキャリアを考える中高年齢者においては、定年後の再就職や転職に関する情報が若年者に比べて少なく、情報収集に時間をかけるこ

3 県立学校施設の長寿命化改修事業について

教育長

教育委員会では、2019年に策定した「県立学校施設長寿命化計画」に基づき、建築後30年経過の建物を対象とした大規模改修工事に加え、60年経過を目的に長寿命化改修工事を行うことで、80年まで使用できる老朽化対策を進めています。屋上防水、外壁の改修、屋内の壁や床などの改修、照明のLED化など、建物の老朽化の状況に応じたリニューアルを図っています。計画の進捗状況は、対象となる建物739棟のうち、昨年度までに238棟の工事

とが難しい場合があります。そこで、企業や中高年齢者にとって雇用に関する有益な情報をワンストップで提供するため、国等の支援制度や各種相談窓口を始め、働く中高年齢者や雇用企業の好事例、セミナー情報などを分かりやすく紹介する、専用ポータルサイトを新たに構築し情報発信を充実させていきます。

を完了しました。今年度に完了予定の60棟を合わせますと、進捗率は約40%です。また、トイレの環境改善として、普通教室棟や管理棟の便器の洋式化と床の乾式化も進め、昨年度までに約2000か所の整備が完了しております。次に、今後の取組として、計画期間の終期となる2029年度までに、残りの441棟の工事を進めていきます。工事を進める際には、これまで、建築年度の古い順に改修を進めていきましたが、学校からは、雨漏り等の老朽化が進んでいる建物から先に改修してほしいといった声や、建築年度が異なる建物は、一体として使用している建物は、同時に工事を行ってもらいたいといった声を生かし、今後は工事が所定の決定に際しは、学校の希望を十分に尊重して、子どもたちの学校生活への影響が最小限となるよう柔軟な対応をしていきます。などの代表質問をしました。



本会議の録画視聴はこちらから

愛知県議会ホームページ <https://www.pref.aichi.jp/gikai/>

あいち民主具議団 一般質問から

(12月5・6日 本会議)

国際芸術祭の開催地瀬戸市の魅力向上について



長江 正成 議員 (瀬戸市 5期) フール・アル・カシミ芸術監督は、これまでに何度も

会場である瀬戸市を訪れており、「陶磁器をはじめとする瀬戸の風土、文化は大変素晴らしい。多くの来場者に、瀬戸の魅力を知ってほしい」と盛んにご発言されています。参加作家も作品制作に向けて、瀬戸市内の陶磁器産業の方々にお話を伺うなど、瀬戸の土の

癒しが必要な子どもたちにセラピードッグを



谷口 知美 議員 (昭和区 5期) あいち小児保健医療総合センターでは、NPO法人CA

NBEによるセラピードッグ訪問派遣を導入している。その子どもたちの笑顔から、県の他の子ども関係の医療・福祉施設での導入を求めた。県からは、子どもたちの不安の解消や精神的負担の軽減に一定の効果が期待されるとして、アレルギー等の課題について調査し、

愛知県と欧州の比較による課題について



山口 たけし 議員 (岡崎市・額田郡 1期) ①カーボンニュートラルの推進

②外国人県民のウェルビーイング

等々のインフラ整備を強化し移民受入。一方、外国人生活保護世帯数が5年前比較で全国0.6%増に対し、本県4.1%増。各種支援強化が必要。

③子ども達のキャリアデザイン

2023年度県立高校卒業生の就職者は18.2%。進学者が80%以上と圧倒的。

オランダは12才時の統一テスト結果で進路方向づけ。社会に出る準備が大変早い。

企業は高卒者の採用を熱望。高卒で働くか進学するか、冷静に考える必要性が高まっている。

郵便・貨物集配中車両に対する規制の見直しについて



鳴海 やすひろ 議員 (中村区 3期) 近年、通販などの需要増加により、郵便局員

や宅配ドライバーが駐車スペース不足に苦慮している現状があり集配業務に支障をきたしている。名駅周辺では、駐車監視員の取締りが重点的に行われており、駐車違反ラベルを貼られるケースが頻発しており、駐車スペース不足に加

え、高額なコインパーキング利用や再配達の増加により、負担が増加しているとの声が多く上がっている。そこで、こうしたエッセンシャルワーカーに配慮した施策の推進を提案と質問した。警察本部長からは貨物車両の駐車需要は高まっていると認識しており、集配中の車両を対象に駐車可とするパーキングメーターを設置するなど規制整備を行い、駐車規制の見直しを推進するとの答弁があった。

愛知県基幹的広域防災拠点を整備

整備コンセプト…名古屋市との共同設置による全国初の消防学校教育

大規模災害時に、全国からの応援人員や物資等を円滑に受け入れ、被災現場や地域の防災拠点に迅速かつ的確に供給するための拠点を整備する事業です。

第一期として整備する防災拠点の中核施設である消防学校は、災害時には防災拠点の本部機能を担い、平常時には県内消防職員等の育成を担う施設となります。

◆整備イメージ

●教育棟

- ・防災・減災の普及、啓発及び人材育成を担う施設
- ・県職員が常駐し防災啓発、防災ビジネス支援の拠点として運営
- ・防災フェスタ、県総合防災訓練をはじめ、県民参加型の防災各イベントを定期的実施
- ・小中学生などを対象とした防災普及啓発や近隣大型施設と連携した合同イベントなどを実施

●屋外訓練場

- ・愛知県消防操法大会が実施できる仕様を満たした屋外訓練スペースの確保

●震災訓練場

- ・建築物が倒壊した現場を想定した被災者救出訓練機能の確保

●土砂災害訓練場

- ・土砂災害を想定した実技訓練、生き埋め検索訓練等の機能の確保

●水難救助訓練場

- ・河川、海岸からの救出を想定した訓練を実施
- ・縦50m×横14m、6コースの訓練プール
- ・水槽に1.2m、3m、5mの異なる水深を設ける。
- ・水中スピーカー、訓練用観察窓を設置
- ・全国消防救助技術大会等の基準を達成

●宿泊棟

- ・学生350人の宿泊室を確保
- ・最大400人が食事可能なスペースを確保
- ・談話室、トレーニングルーム、図書室を設置

●救助訓練棟・雨天訓練設備

- ・全国消防救助技術大会等の基準を満たした施設
- ・救助訓練棟全体を覆う大屋根を設置し、雨天でも訓練可能とする(全国初)

●街区消火訓練場

- ・可動式模擬家屋9棟(住居・店舗等)を用いて様々な街区を想定した救出・消火訓練を実施

●複合訓練施設

- ・高層建築物での火災等を想定した消火、救出訓練を実施
- ・実火災を再現し、高度な消火技術を錬成できる訓練を実施
- ・煙の無害化処理設備を設置

●管理・教育棟

- ・初任科学生最大350人を収容可能な大教室、専科用講義、シミュレーション訓練で用いる中・小教室を配置



運用方針 | 全県一貫した教育訓練による県内消防力の強化、地域への施設の開放など開かれた消防学校として運営



YouTube
はこちら

あいち民主県議団
の活動をチェック!

facebook
はこちら

